

|         |  |
|---------|--|
| 氏名      | 市場尚文   |
| 学位の種類   | 医学博士   |
| 学位授与番号  | 博乙第1955号   |
| 学位授与の日付 | 昭和63年12月31日  |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）   |
| 学位論文題目  | 正常人における視覚認知に関する研究<br>第1編：正常小児における優位視野の発達過程<br>第2編：優位視野と利き手，利き目との関連 |
| 論文審査委員  | 教授 松尾信彦 教授 堀 泰雄 教授 中山 沃  |

#### 学位論文内容の要旨

第1編では、4歳～成人までの正常人70名（男35名，女35名）を対象に、tachistoscopeを用いて視覚認知の発達過程を検討し、1）優位視野は4歳までに確立している 2）ひらかな，漢字，アルファベット，図形のいずれにおいても右視野優位が高率を占める 3）平均露出時間は、ひらかな一文字，漢字では6～7歳までに、ひらかな二文字，三文字では10歳までに年齢と共に短縮する 4）Laterality Indexの左視野優位は右目利き55名中3名（5.5%）に対して左目利きでは15名中5名（33.3%）で、有意の高値を示し、優位視野の決定における利き目の関与が示唆されたが、利き手は関与しないことを明らかにした。

第2編では、正常成人48名〔左手利き24名（男12名，女12名），右手利き24名（男12名，女12名）〕を対象として、第1編と同様の方法で視覚認知における優位視野と手・目の利き側との関連をさらに詳細に検討した。その結果、刺激の露出時間を次第に延長して、初めて認知するまでに必要な露出時間（A値）決定時のLaterality Indexで左視野優位を示した8名のうち、右手利き，左手利きは各々4名で、利き手と優位視野との関連は否定された。一方、一度認知した後、逆に露出時間を次第に短縮した際認知できる最短時間（D値）決定時に左視野優位を示した7名は全員左目利きで、利き目と優位視野との関連が確認された。しかし、刺激の内容，平均露出時間と手・目の利き側，性別との関連は認められなかった。

以上より、正常人の視覚認知における半球優位性の検討においては、利き目の考慮が必要であることを指摘した。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は正常人における視覚認知について臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった正常人の視覚認知における大脳半球優位性の検討について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。